

農泊について

「農泊（のうはく）」とは農山漁村地域に宿泊し、日本ならではの伝統的な生活体験や、農村地域住民との交流、地域資源を活用した食事・体験を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のことを指します。今、空き家活用において農泊が注目されています。空き家を農泊施設として活用することにより、地方の活性化と観光振興に大きな可能性をもたらす革新的な取り組みになるためです。

なぜ今、農泊なのか？

従来、旅行者の宿泊は都市部ホテルでするため農山漁村地域の滞在時間が短く、利益は限定的でした。この点、農泊により農産漁村地域に宿泊施設を作ると滞在時間が長くなり、食事・体験・交流を通じて地域全体に大きな利益が見込めるというメリットがあるためです。



農泊によるメリットの数々

- 農山漁村地域が農業・林業・漁業収入以外の新たな収入で潤います
- 荒廃農地が観光農地や移住者向け農地として活用されます
- 空き家が宿泊施設に転換され、倒壊・防犯面のリスクがなくなります
- リフォーム・清掃・飲食等新たなビジネスが生まれます＝雇用機会の創出
- 農泊した方が移住・定住につながるケースがあります

農泊による成功事例

成功事例としては丹波篠山市の丸山集落の事例が有名です。もともと全戸で12軒の集落が平成21年に世帯数5戸、人口わずか19人という限界集落となりました。そこで住民らが平成21年10月に古民家を改修し農泊事業を開始。隣接古民家でフランス料理や蕎麦懐石店がオープンしました。結果として里山の美しい景色も好評で、今では年間約800人の集客があります。存続の危機に瀕していた集落に活気が戻り住民が増え、耕作放棄地・空き家が無くなりました。このように農泊事業は地域振興策として大きな可能性を秘めています。

